

373) 降る雪

いつだっていつだって 君だけを見つめてた
すれ違う^{まなざ}眼差しに 生き甲斐を感じてた
逢いたくて逢たくて もう一度逢いたくて
降りしきる雪の中 あてもなく彷徨^{さまよ}った

いつだっていつだって 君だけを感じてた
美しい面影が 思い出を駆け抜ける
逢いたくて逢たくて もう一度逢いたくて
降る雪にひとときの 幻を追いかけた

いつだっていつだって 君だけが愛だった
かじかんだ心には ^{いと}愛しさが積もってく
逢いたくて逢たくて もう一度逢いたくて
すぎし日を閉じ込めて まっ白に雪が降る

いつだっていつだって 君だけを見つめてた
行く道を失って 後悔が目を覚ます
逢いたくて逢たくて もう一度逢いたくて
^{うんめい}運命を凍らせて あの日々に帰りたい